

【受付】



【受付・パスセット】



【席列掲示】



【テクニカルスペース・プロジェクター台】



【功労者・選考委員控室】



【茂木会長控室】



【内閣総理大臣・農林水産大臣控室】



【農林水産省控室】



【ステージ】



【会場全体】



MAFF
Ministry of Agriculture,
Forestry and Fisheries
農林水産省

平成27年度
日本食・食文化の世界的普及プロジェクト事業のうち
海外の日本食・食文化普及を担う人材の活用事業
(日本食・食文化の功労者の表彰等)に係る委託事業

協議会総会議事録

【茂木会長のご挨拶】

農林水産物等輸出促進全国協議会会長を仰せつかっております、キッコーマン株式会社取締役名誉会長の茂木友三郎でございます。本日は皆さまお忙しい中、十回目を数えます全国協議会総会にご出席をいただきまして、まことにありがとうございます。

本日は森山農林水産大臣にご臨席をいただきしており、また安倍総理も後ほどいらっしゃるといふことであり、安倍総理、森山大臣に厚く御礼を申し上げたいと思います。

総会を開催するにあたり一言、ご挨拶を申し上げます。

まず日本食海外普及功労者として表彰される五人の皆さま、まことにおめでとうございます。皆さまの長年のご努力に心から敬意を表するとともに、今後のご活躍をお祈り申し上げます。次に農林水産物・食品の輸出の状況を見ますと、平成26年の輸出額は6,117億円となり、昭和30年に輸出額の統計を取り始めて以来の最高額を二年連続で更新いたしました。これはなにより事業者の方々が輸出に努力された結果と考えております。今後とも買い手のニーズをとらえ、安全で高品質な商品を安定的に供給していくことにより、農林水産物・食品の輸出も更に伸びていくものと期待いたしております。

このような中、本協議会といたしましても、平成17年の発足以来、輸出に積極的に取り組んできたということではありますが、昨年6月、本協議会のもとに輸出戦略実行委員会を設置し、品目別に輸出拡大方針を策定し取り組みを強化してまいりました。今後は更に2020年のオリンピック、パラリンピック、東京大会を見据えた日本食・食文化の発信も合わせ、地方の魅力を活かした輸出の拡大を図ることが必要であります。本協議会の会員各位におかれましても、各地域における取り組みを含め、輸出促進の取り組みに一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

次に新規に加入された会員をご紹介いたしたいと思います。昨年から今年にかけ、品目ごとのオールジャパンの輸出団体が七団体設立され、本協議会にご加入いただきました。加入順に、水産物水産加工品輸出拡大協議会。一般社団法人全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会。一般社団法人日本木材輸出振興協会。全国花き輸出拡大協議会。日本畜産物輸出促進協議会。日本茶輸出促進協議会。日本青果物輸出促進協議会であります。

これに加えまして、このたび、本協議会の趣旨にご賛同いただきまして、公益社団法人中央畜産会が加入されましたのでご紹介いたします。

これをもちまして本協議会の会員数は167団体となっております。

最後に皆さまご承知のとおり、先ごろTPP交渉が大筋合意に至りました。今後、日本経済の様々な面に好影響が現れ、農林水産物・食品の輸出も更に拡大していくものと期待しております。輸出額目標1兆円の達成に向け、協議会会員各位の益々のご活躍を期待いたしまして私の挨拶とさせていただきます。平成27年10月30日、農林水産物等輸出促進全国協議会会長茂木友三郎。

【森山大臣のご挨拶】

このたび、農林水産大臣を拝命をいたしました森山裕でございます。本日は十回目の締めとなる農林水産物等輸出促進全国協議会総会にお集まりをいただき、厚く御礼を申し上げます。

まず、協議会の会員の皆さまにおかれましては、農林水産物等の輸出にご尽力を賜っておりますこと、厚く御礼を申し上げます。また本日は、日本食海外普及功労者として表彰をされる皆さま、おめでとうございます。

さて、我が国の農林水産物・食品の輸出額は、一昨年は5,505億円、昨年は過去最高の6,117億円でした。更に今年は8月までの実績で、昨年比24%増と順調に伸びており、輸出戦略が実を結びつつあります。また本年5月から食をテーマにして開催をされてきましたミラノ万博は、明日、閉会を迎えますが、お陰さまで日本館の入場者数は、当初見込みの140万人を大きく上回り、220万人を超える多くの方々の関心を集めました。日本食・食文化の魅力を、ヨーロッパをはじめとする世界中の人たちに知っていただき、需要のフロンティアは着実に開拓できています。かつて遠い目標であった輸出額1兆円達成は手の届くところまでできており、更なる高みを目指して関係者が一丸となって頑張っていく段階に入ってきました。

こうした中でご案内のとおり、去る10月5日、TPP協定交渉は大筋合意に至りました。即時の関税撤廃が原則という厳しい交渉の中で重要五品目等を中心に、長期の関税撤廃期間やセーフガードの措置が設定されるなど有効な措置とすることができました。ただし一方で、農林漁業者や食品産業関係者の皆さまには、不安と懸念があることも承知しております。

保秘義務のかかった交渉で正確な情報をお伝えすることができませんでしたが、現場の皆さまの不安に寄り添ってしっかりした対策をつくるようにという総理からのご指示を踏まえ、現在、大筋合意の内容の説明に全力を挙げて取り組んでいるところであります。またTPP協定交渉では、国別・品目別輸出戦略に掲げられた品目の全てで関税を撤廃をするなど、輸出に有利な条件も獲得できたところであります。今後こうした状況を踏まえ、政府一体となって関係者の不安を払しょくしつつ、我が国農林水産、食品産業の競争力を強化できる万全の措置を講じ、この機会を大きなチャンスとしてまいりたいと考えております。

おりしも農林水産省では、農林水産業地域の活力創造プランに基づく農政改革の一貫として、10月より本省及び地方において、日本の農林水産物・食品の市場拡大に向けた体制を強化したところです。新たな組織体制のもと協議会の皆さまとともに、農林水産物の一層の輸出促進に取り組んでまいりますので、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

結びに、本日までご出席の皆さま方のご健勝と更なるご活躍を祈念いたしまして私の挨拶といたします。平成27年10月30日、農林水産大臣森山裕。

【安倍総理大臣のご挨拶】

皆さん、こんばんは、安倍晋三でございます。「JAECAP(ジェイキャップ)2015」の開催に当たり、一言お祝いを申し上げます。

はじめに、このたび、海外での日本食普及の功労者として表彰された5人の方々に、心からお祝い申し上げます。皆様方におかれましては、まだ海外に日本食が浸透していなかった時代から、長年にわたり、様々な苦勞を乗り越え、日本食の普及に情熱を注いでこられました。ここに深く敬意を表する次第でございます。

このたび、TPP協定が、大筋合意にいたりました。TPPでは、多くの国で、我が国の農作物や水産物にかけられていた関税がなくなります。日本が誇るおいしいお米、甘くてみずみずしい果物、霜降りの和牛。既に海外の消費者を虜にしている日本の様々な食品が、世界のマーケットへと、さらに大きく広がっていくチャンスであります。安倍内閣は、これからも、輸出に取り組む皆様を全力で応援してまいります。

私自身、総理就任以来、海外出張の機会にあわせて、日本の品質の高い農林水産物や日本食の魅力を、各国の要人に直接伝えてきました。9月に国連総会のためニューヨークを訪問した際には、寿司文化と日本のお酒を多くの方々に味わっていただき、大変好評を博しました。

5月1日から、食をテーマにして開催されてきたミラノ万博。明日で184日間の会期を終え、閉会となりますが、日本館への来場者は1日平均で1万人以上。合計で220万人を超えるなど、日本の食に対する注目度は非常に高いものとなっています。

昨年、農林水産物・食品の輸出額は過去最高の6,000億円の大台を超えました。今年も上半期だけで3,500億円に達しました。しかし、まだまだ少ない。世界には340兆円規模の食市場が広がっているわけであります。

今後とも、森山大臣と、ご臨席の皆様と力を合わせて、農林水産物の輸出実績を1兆円、そして、それを通過点として、さらに伸ばしていきたいと思っております。

最後に、ご臨席の皆様方の益々の御活躍と御健勝をお祈りいたしまして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。平成27年10月30日、内閣総理大臣安倍晋三。

おめでとうございました。